

# 新居浜

# 太鼓

# 祭り

新しい新居浜 はじめよう！

## 特集 新居浜太鼓祭り

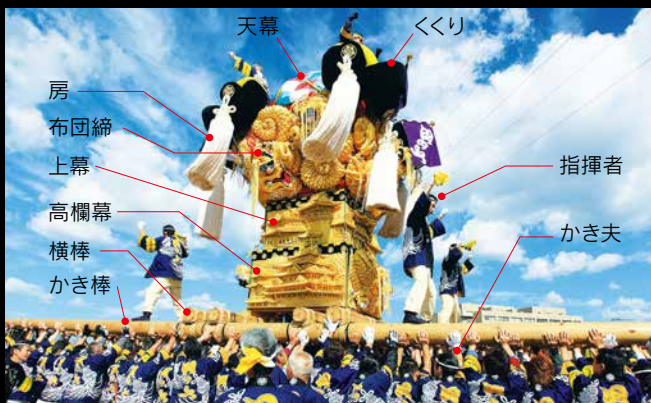
四国三大祭りの一つに数えられる新居浜太鼓祭り。その起源は、古く鎌倉時代あるいは平安時代まで遡ると言われています。

太鼓台は、神輿に供奉する山車的一种で、信仰を対象とした神輿渡御の際、その列に参加して厳かに供奉し、豊年の秋を感謝して氏神に奉納していたものです。

明治初期の太鼓台は、高さ約3mで現在の子ども太鼓台くらいの大きさでした。

別子銅山の隆盛により、産業や地域経済が発展するにつれて、太鼓台を所有する地域が太鼓台に建設費用をかけるようになり、その豪華さ、巨大さを競うようになりました。

現在とほぼ同じ大きさになったのは明治中期から昭和時代初期にかけてのことで、飾り幕は縫いの発達とともに豪華に、また天幕も膨らみを持ったものをつけるようになりました。



船御幸

港から太鼓台を船に乗せ、海上をパレードする。大漁を祈願するもので、川西地区において隔年開催。



新居浜市内には現在 53 台の太鼓台があります。

高さ 5.5m、長さ 12m、幅 3.4m、重さ約 3 トンという巨大な山車である太鼓台には、150 人余りの男衆（かき夫といいます）がつき、太鼓台から打ち鳴らされる太鼓の音、運行を仕切る 4 人の指揮者の笛、揃いの法被に身を包んだ男衆達のかげ声によって市内を練り歩きます。複数の太鼓台が一箇所に集まり、練り歩く際に取り付けていたタイヤを外し、かき夫の力だけで支えかつぐ「かきくらべ」は、新居浜太鼓祭り最大の見どころです。

男衆を鼓舞するように太鼓が早打ちされ、指揮者の絶妙な指示で太鼓台を肩にかつぎ上げ、さらに「差し上げ」と呼ばれる両手を伸ばして持ち上げる様を競い合う、まさしく男衆の力比べ、技比べです。

この男衆の祭りにかかる情熱が観衆にも呼応し、人波に押され、祭りは最高潮に達します。

「かきくらべ」は、祭り期間中、市内各所で繰り広げられています。



### 【太鼓台ミュージアム】

あかがねミュージアムには、実際に運行されている市内各地の太鼓台を順番に展示する「太鼓台ミュージアム」があり、ほぼ 1 年中実物の太鼓台を見ることができます。運行時の写真や法被、のほりなども展示しており、360° シアターでは、映像と迫力のある音で太鼓祭りの臨場感を体験することができます。

Hello!  
NEW

# 新居浜